

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 すみれ)

事業所番号	0673200341		
法人名	有限会社 カワムラ		
事業所名	グループホーム 燦燦		
所在地	山形県飽海郡遊佐町遊佐字南大坪12-1		
自己評価作成日	平成 23年 12月 16日	開設年月日	平成 16年 1月 9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1. ユニットマーガレットに記載

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

マーガレットに記載

事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(株) 福祉工房		
所在地	〒981-0943 仙台市青葉区国見1丁目19番6号-2F		
訪問調査日	平成 24年 1月 20日	評価結果決定日	平成 24年 2月 2日

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="checkbox"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="checkbox"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="checkbox"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="checkbox"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="checkbox"/> 1. 毎日ある <input type="checkbox"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3. たまにある <input type="checkbox"/> 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2. 数日に1回程度 <input type="checkbox"/> 3. たまに <input type="checkbox"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="checkbox"/> 1. 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2. 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3. あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない		

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
理念に基づく運営						
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	マンダラート表を使用し、職員全員で理念と目標を考え、その人らしい生活を支援、地域との関わりの継続を重点に再構築した。また申し送り時に理念と目標を発表し、職員全員が認知し日々の実践につなげている。	認知症の実践者研修で理念の作り方を勉強全職員参加でつくる。全職員が周知するために、掲示、会議で話し合い実践につなげるようにしている。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の芸術祭に招待されたり、保育園の運動会やお遊戯会に参加し子ども達とのふれあいを楽しんでいる。又、地域の文化祭で利用者が作った物を出品し皆さんに見てもらったり、燦燦夏祭りでは地域の方々からも参加して頂き関わりを大切にしている。婦人会の慰問や踊り・歌等のボランティアの受け入れも積極的に行っている。	保育園、地域の文化祭への出品、運動会への参加、芸術祭の招待等積極的に参加している。又燦燦の夏祭りには地域の方々を招待し、婦人会やボランティア等も積極的に受け入れている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職場体験学習を受け入れており、今年度は4名の生徒が3日間来所した。事業所の広報誌を行事後などに発行しホームの活動を知ってもらうように心がけている。また、今年度認知症サポーターキャラバンメイトを2名受講し、今後家族会や地域の方へ認知症の理解について発信出来るよう活動していきたい。			
4	(3)	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況やサービス内容について報告したり、その時のテーマによりいろいろな意見交換ができ、サービスの向上に活かしている。行事に参加して頂き、事業所を知ってもらう機会を作ったり、避難訓練の状況を見て頂いたりもしている。	2ヶ月に1回開催している。議題によって参加者を柔軟に参加を呼びかけている。行事、避難訓練等にも参加して頂き、事業所のサービスの質の向上の為意見をいただいている。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町役場の担当者や生活保護の担当者とは、日ごろから連絡を取り合い利用者の状況報告や相談をし、協力関係を築いている。また、地域ケア会議に参加し関係者や他職種の方々との情報交換を大切にしている。	運営推進会議に参加している。生保が3名いるので、毎月1回はケースワーカーが来所して、生活の様子を話したり、相談したりしている。いつも相談し易い関係を作っている。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	夜間以外は玄関に鍵を掛けず、散歩やドライブ等自由に対応出来るようにしている。ホーム内でも利用者が自由に動けるように適切な見守りを行っている。	日中は自由に外出できる体制はできている。職員は見守りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、虐待の防止について職員全員周知しており、一人一人見守りを強化し虐待防止に努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で勉強したり、以前福祉サービス利用援助事業を利用している方がいて制度についての理解は出来ている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時、利用料金の改正時等の際は、文書を基にわかりやすく説明し納得してもらっている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の方々の意見には常に耳を傾け日常生活や行事に役立てるようにしている。また家族の方々が来所された時には必ず職員が声掛けし、また面会簿には気づいた事や要望等の意見が何でも記入出来る様な用紙にしており、以前よりも家族からの声が沢山聞かれるようになった。意見があった場合はケース記録や申し送りノートに記載し検討を行って運営に役立てている。	家族の要望を聞くために、面会時に各人の利用者のファイルをつくっていて、日頃家族に対する情報を記入して、面会時にそれに対する返答を記入する(交換日記のような)等の工夫をしている。	
11		運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や毎日の申し送り時に勤務内容や行事、気づいたこと等について職員の意見を聞く機会を設けており、常に反映させている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の業務の様子を見たり、研修・行事の報告書により状況や実績を把握している。また年に1回役員との個人面談をし職員の意見や要望を聞き職場環境や条件の整備に努めている。		
13	(7)	職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりのケアの実績と力量を把握した上で、なるべく職員一人ひとりが自分で行きたい研修を選び積極的に参加している。スクラムチャレンジや交換実習にも参加しておりその都度、伝達研修を行っている。	外部研修が主体となっており、職員の選択、管理者による推奨により参加している。内部研修は特別行なわれていない。	事業所として年間の職員研修計画をつくり、全体的な職員のレベルアップを図り、サービスの質の向上を図ることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	町にある特養施設の夏祭りに参加したり、近隣の事業所の行事に招待されたりと交流を深めている。また県内や庄内地区のグループホーム連絡協議会に積極的に参加したり、研修会への参加でネットワーク作りやサービスの質向上につながっている。	交換実習、グループホーム連絡協議会、スクラム研修等に参加して他の事業所と交流している。	
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用を開始する前には、本人と面談して身体状況や生活状態、不安に思っている事などの把握に努め、当初より信頼関係を築くことができるように努力している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と利用前に面談し、どのような問題点を抱えているかや要望など家族の立場を理解しながら把握に努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接の時に、その時点で一番必要としている支援は何かをできるだけ正確に把握し、実際のサービス開始が支障なくできるように努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の状態を見ながら、掃除や調理、茶碗拭き、洗濯物干し・たたみ等毎日一緒に行ってもらっている。また、料理や暮らしの工夫、畑作業など利用者の方々についての経験を聞きながら参考にさせてもらっている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の様子を毎月おたよりで報告し、広報ができた時には同封しホームの様子を知ってもらう機会にしている。来所された時や電話などで状況を伝え、家族の方々も一緒に支えてもらえるような環境作りに努めている。また、行事に家族も参加して頂き、ホームでの様子等を見てもらう機会を作り家族の絆を大切に出来るようにしている。		
20		馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前から利用していた理・美容院や洋服店等本人が希望すれば送迎している。知人や担当の民生委員や支援センターの職員などが訪問しやすい環境にしており、本人の大きな支えになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニットが違ってもお互い毎日行き来し合い、会話やレクを楽しめるような環境にしている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者や家族が希望すれば、特養入所申請の際意見書を記載し提出している。長期の入院等で契約が終了した場合でも本人や家族の相談に応じ、支援を行う用意がある。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のC1を利用して思いや希望の把握に努めるとともに日常生活での関わりで得た情報をケース記録等に記載してカンファレンス等で本人本位に検討している。	センター方式や、日常生活から思いや意向を把握し、職員間で共有しているが、その人らしい部分がもう少し明確にして情報の共有が望ましい。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接で生活歴や暮らし方、環境等の把握に努め、必要時にはケアマネジャーや支援センターの職員、民生委員等の情報も役立てている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方や心身の状態などの把握に努めており、把握した情報はケース記録や特記事項については一人一人の気づきノートに記入したり、申し送りノートに記載している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日利用者の方々の状態を把握しケース記録等に記載し、カンファレンス等で話し合いを行い、介護計画やモニタリングに活用し全員で統一した支援ができるように努力している。また本人やご家族様の意見も計画に取り入れている。	家族、職員等の意見を聞き計画をしている。毎月現状にあった支援をするように、計画書を見直している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活やその日その日の状態等について毎日ケース記録に記載している。また、気づきや支援の工夫について一人一人個別に気づきノートに記載し情報の共有に努め、計画の見直しにも役立てている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	住み慣れた地域で、買い物やドライブ、外食等に出掛けたり、近くの河川敷で芋煮会をしたり、パチンコの無料体験に参加したりと出掛ける機会を多く設けている。また本人が希望する美容院や洋服屋に行かれ楽しまれている。出掛けるのが困難な方もいる為、地域の洋服店よりホームへ移動販売に来て頂き、自分の気に入った物を購入し皆とても喜ばれていた。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する病院や医院に引き続き受診できるように支援し、必要によっては家族と調整しながら受診の介助も行っている。	かかりつけ医に家族が通院同行する時は事業所から、日々の利用者の状態の情報を知らせている。協力医は毎月往診をしている。	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日利用者の状態を把握し、特変があった場合は看護師に相談し、それぞれの利用者が適切な対応を受けられるように支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の必要が出た場合は、ホームでの日常の状態や受傷時または症状が出た時の状態などを記載し情報の提供を行っている。入院期間中もこまめに病院へ様子を伺いに行き、病院関係者との情報交換をしている。また退院後のホームへの帰園に向けて病院関係者や本人、家族等と情報交換や相談のための面談を行うなどを行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応に係る指針を作成し、本人・家族と話し合い、事業所として出来る事を説明し理解と同意を得ている。	重度化した場合の対応指針を作り契約時に説明している。ターミナルケアは現時点では、しないという指針ですが、家族、利用者にもう少し分かりやすい指針の検討を希望します。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置しており、職員は普通救命講習を受け人工呼吸やAEDの訓練を実施している。			
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間の火事や地震を想定した避難訓練を年2回以上行い、災害時に対応できるようにしている。2階にあるデイサービスや地域の区長、近隣の事業所との協力体制を築いている。避難訓練時は初期消火訓練も実施している。	年2回日中を想定して避難訓練を行なっている。2階のデイサービス、区長、近隣の事業所等の協力体制を作って話し合い、初期消火の訓練も実施している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、利用者の方々を傷つけないような言葉掛けをすように常々留意している。プライバシーに関する事は口外しないように、個人情報保護方針に職員全員から同意をもらい、職員会議等でも確認している。	日々の職員の声掛けや排泄介助、入浴時に留意している。研修もしているが、毎年の研修課題にして欲しい。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は、出来るだけ個々の利用者に話しかけ本人の思いや希望をくみ取り、自己決定できるように支援している。			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのその日の状態を見ながら出来るだけ希望にそえるように支援を行っている。掃除や調理を一緒に行ってもらったり、他者と話をしていたいとか居室で臥床していたい場合は休んでもらう等無理強いせず希望にそって支援している。			
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の利用者の好みを尊重し自分で着る服を選んでもらっている。自分で選択できない方には声掛けしながら一緒に選んでいる。希望する理・美容院への送迎を行ったり、来所によりカットもしてもらっている。男性であれば髭剃りの声かけをし、身だしなみを綺麗にしている。			
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立表を作成するときに、なるべく利用者の方々に何を食べたいか聞き献立をたてている。可能な方には一緒に調理の支度をしてもらったり、テーブル拭きやコップ、茶碗拭きなど行ってもらっている。	職員、利用者と話し合い、献立を作って出来るだけ利用者と職員と一緒に調理等をしている。下膳も積極的に出来る利用者はおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の利用者状態に合わせて刻み食やミキサー食にしたり、量を加減したりしている。その日の状態によってご飯をお粥にしたり、食べれない物や嫌いな物がある時は別メニューを提供するなどの配慮し、水分量も含めて把握している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛けや一部介助、全介助で口腔ケアを行っている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンの把握に努めており、なるべくトイレで排泄できるように誘導等の支援を行っている。	排泄チェック表を利用してパターン化してトイレで排泄できるように支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向にある利用者については、排便チェック表を利用して排便の有無をチェックしている。また食事や水分摂取量をチェックし必要な時は水分を多めに摂取してもらうなどの支援を行っている。表情を見ながらトイレに誘導するなどの支援も行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴する際に午前や午後1番、または最後が良いなどの希望を聞きできるだけ可能にするようにしている。一人週3回程度入浴しており、体調不良で入浴できない場合は清拭や足浴を行っている。	週3回は入浴している。利用者は入浴時間を希望しなるべく応じられるようにしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の利用者の体調を考慮しその日の状態を見ながら、居室で臥床してもらったりソファーでくつろいでもらったりしている。夜間も落ち着いてゆっくり休まれるようにベッドや枕、寝具など清潔な状態で、室温も適度に保ち静かな環境になっているように常に配慮している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ケースを作り一日分の薬を朝・昼・夜に分けて毎日管理している。誤薬防止の為2度確認するなど職員全員徹底している。下剤を服用する方は、その日の排便状態により調整している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者のこれまでの生活歴を生かして、掃除や調理を手伝ってもらったり、畑仕事をしたり力を活かした役割を支援している。また、日々楽しみ事や気分転換になるような事ができるよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その方の希望にそって散歩やドライブ、外食、買い物など出掛ける機会を多く設けている。日曜日は入浴がない為、普段行けない所へドライブに行ったりしている。また家族の協力を得て外出や買い物に行ってもらう事もある。	年2回の小旅行で常に行けない所に行くのを楽しみにしている。日常の散歩、買い物同行はその都度希望で行なっている。又家族の協力で外出する時もある。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を管理出来る方は自分で管理してもらい、出来ない方はホームの金庫で預かり、お金を使用した場合は出納帳に記入し御家族へ報告している。日用品等購入希望の時は職員と一緒に買い物に行ったり、職員が変わりに買って来て本人に確認してもらうなどの支援を行っている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や親せき、友人等に自ら電話する事を支援している。電話のボタンが押せない方には押す等出来ない所は介護員がサポートしている。手紙を出したい方がいれば支援する用意はある。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有のフロアはゆったりとしたスペースになっており、温度調節にも配慮している。加湿器・空気清浄器をフロアに2台設置しインフルエンザ予防など健康管理に努めている。また利用者の方々が塗ったカレンダーや季節感がわかる塗り絵などを貼り居心地良く過ごされるように工夫している。	共有の空間はとても広くゆったりとしている。温度、湿度に注意して健康管理に十分気をつけている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内のテーブル、椅子、ソファなどはいつでも自由に使用してもらっている。気の合う利用者同士と一緒に座って話をしたり、ソファでくつろいだり横になったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の希望を聞き、使い慣れた物をなるべく持ってきて頂けるように支援している。その他家族の方が準備してくれたり、本人が過ごしやすい居室になるようにそれぞれ工夫して頂いている。	その人らしい部屋に、家族の協力で工夫されている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	つまづくような段差がほとんどないので、歩く人でも車イスの人でも安全に動けるようになっている。適所に手すりや設置してある為、足腰が少し弱くなっている方や杖を使っている方も、つかまりながら安全に歩行する事が出来る。		